

四年間を振り返って

加山 久夫

1994年4月からの4年間、キリスト教研究所所長のつとめをなんとか終えることができて、ほっとしています。この間、さまざまの形でご協力いただきました多くの方々に心から感謝申し上げます。苦労がなかったといえは嘘になりますが、研究所の仕事をとおして学内外のさまざまの専門分野の方々にお会いし、多くの知的刺激をいただけたことは大変幸いなことでした。また、二年前に研究所は新本館北ウイング9階に引っ越し、そこから眼下に見おろす八芳園のそれは美しい庭園を眺めることは、私にとり格別の楽しみでした。その点では、キリスト教研究所は本学白金校舎の他の職場と比較して「特権的」といえるのではないのでしょうか。この特権はこれからも

大いに享受させていただきたいと思っています。

本研究所の二十数名の所員はすでにそれぞれに所属する学部や学内外で教育・研究活動やさまざまな責任を負っておられ、そのうえ本研究所の活動に参加することにはかなりの負担が加わることになり、とくに研究分野を異にする所員が共同の営みをするのは容易なことではありません。しかし、「キリスト教主義教育研究」、「賀川豊彦研究」、「初期明治学院と宣教師たち」、「古代キリスト教とヘレニズム思潮」など既存の共同研究のほかに、さらに、専攻分野や個人的関心において多少とも接点をもつ方々同志が新たな共同研究テーマを開発し共同作業することによって、もっともっと貴重な学際的成果が生み出されるのではないかと考えていました。何とかして全所員の参加により、研究所が擁する豊かな知的資産のさらなる活性化を、との在任中の願いは十分な働きかけをなしえないままになってしまいました。これは今後の課題として新執行部のもとで考えていただければ有り難く思います。

本学の厳しい財政事情の中で、二人の研究員の招聘を認めていただくことをはじめとして、キリスト教研究所が現在のような形で活動することができることは大変感謝なことであり、今後とも研究所がその付託に応えていくためにも、一所員として微力をつくささせていただきたくと思っています。

所長在任中、主任としてよい働

きをしてくださった畠山保男、斉藤栄一両先生に感謝します。最後になりましたが、しかし何にもまして、こまやかな心配りをもって研究所の日常活動を支えてきてくださったお二人の副手、樋谷恵理子さんと岡村有希子さんにここから感謝いたします。

(かやま ひさお

前所長、一般教育部教授)